

# 血液内科

## ● スタッフ（平成27年10月1日現在）

診療科長 大屋敷 一馬  
 医局長 岡部 聖一  
 病棟医長 伊藤 良和  
 外来医長 田内 哲三

医師数 常勤 15名  
 非常勤 1名

## ● 診療科の特徴

高齢社会に到来により、造血器腫瘍をはじめとする血液疾患が増加している。とりわけ、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群が顕著であり、患者数の増加につながっている。そのため血液内科のニーズが高まってきた。血液領域には様々な疾患があるが、当科は主に造血器腫瘍、造血障害を担当している。特に造血器腫瘍を中心として腫瘍性疾患の病態解明、分子標的療法の開発に取り組んでいる。また同時に同種造血幹細胞移植を積極的に行い、免疫病態の解明にも力を入れている。

## ● 診療体制と実績

### 1) 外来診療体制と実績

血液内科が診療とする疾患は、白血病、骨髄異形成症候群（MDS）、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に代表される造血器腫瘍、再生不良性貧血、溶血性貧血、多血症、血小板減少による出血性疾患などである。血液疾患に対する治療の進歩は著しい。新しい分子標的薬や抗体療法が導入されてきており、これらの最新の知見を積極的に取り入れている。経験豊富な専門医を中心として、エビデンスに基づいた最善の治療法をきめ細やかに患者さんに提供している。また無理なく治療が続けられるよう、QOLを考慮した外来化学療法への移行も行っている。表1に平成27年度の外来診療実績を示す。また図1に日本血液学会に疾患登録を行った平成27年度の疾患別割合を示す。

### 2) 入院診療体制と実績

血液内科は32床を有している。32床のうち、骨髄移植、末梢血幹細胞移植などで使用されるクリーン度の極めて高い病床（7床）を備えている。移植の際の強力な化学療法ならびに放射線療法後の一過性免疫不全状態では、患者さんはこの無菌室内でケアを行っている。これにより日和見感染が予防され、治療成績の向上がみられている。また入院患者は、白血病などの難治性疾患を扱う機会が多いため、十分に情報を提供した上で適切な検査法や治療法を提供している。さらに日本成人白血病研究グループ（JALSG）や厚生労働省科学研究費補助金・難治性疾患克服研究事業に参加し、標準的治療法の検証や新規治療法の開発に取り組んでいる。表2に平成27年度の入院診療実績を示す。また図2に移植症例の割合を示す。

項目	数値
年間外来患者数	15,151名/年
年間外来患者実数	2,241名/年
年間初診患者数	758名/年
月平均初診患者数	63名/月
日平均外来総患者数	45名/日

表1. 平成27年度外来診療実績

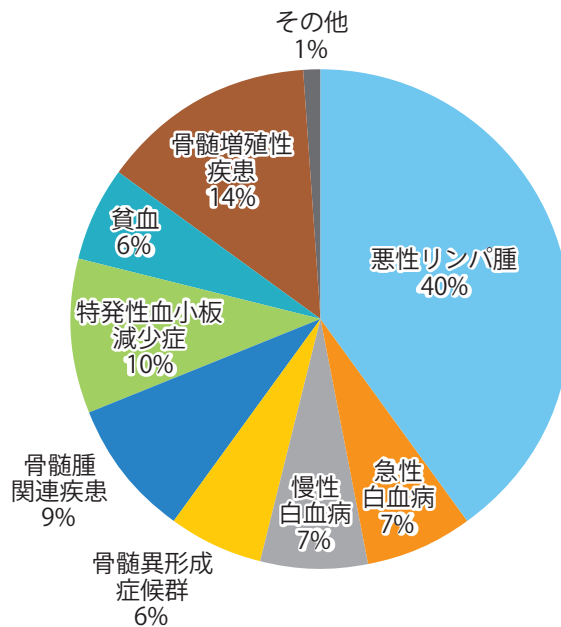
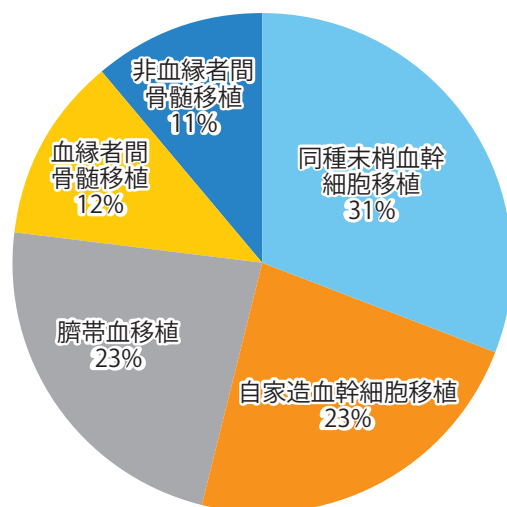


図1. 平成27年度外来初診患者疾患別割合

項目	数値
年間入院患者件数	415名/年
年間実患者数	203名/年

表2. 平成27年度入院診療実績



平成27年度移植割合